

【東京芸術大学】

ヒアリング票

【劇場、音楽堂等との連携の促進について】

(1) 貴大学において、劇場、音楽堂等との連携に係る取組を行っていますか。行っている場合には、具体的に記載してください。

劇場、音楽堂等と大学側の状況にはかなり隔たりがあり、本学としては現時点では行っていない。

(2) 劇場、音楽堂等と連携し、劇場、音楽堂等での実地の経験が論文制作等につながるようなプログラムを組むことについて、大学等の教育機関としてのメリットがありますか。

現場での実地体験は、彼らの理想論と現実の狭間にこそ研究課題があることを気づかせる大きな契機となり、きわめて有意義と思われる。

(3) 劇場、音楽堂等がどのような内容を提供すれば、連携大学院制度（1年間）を活用できますか。

1. 以下の様な様々な実習体験。ただし、包括的なプログラムでは無く、職種毎に切り分けた、専門的なプログラムとする。
 - ・演奏会や催事などの企画制作における財務、法務に関する業務の実習体験。或いは学生による企画。地域ニーズ把握のための調査研究活動。
 - ・技術職(音響, 照明, 道具等)に関する教育プログラム。
2. 演奏会等への出演。

(4) 劇場、音楽堂等と連携し、劇場、音楽堂等での実地の経験を大学等の教育機関における教育課程に位置付け、単位認定することについて、大学等の教育機関としてのメリットがありますか。

大学と現場が十分な意思疎通を図り、双方における教育内容の量的・質的バラ

ンスを慎重に制度設計した上であれば、アートマネジメントの専攻(コース)を設置している大学にとって、大きなメリットになると思われる。ただし、学部レベルでの1~2週間程度のプログラムでは無く、大学院レベルで数ヶ月~1年にわたる実地体験が必要であろう。又、双方の過剰な負担を避けるため、人的措置・予算措置が必要である。

(5) 劇場、音楽堂等がどのような内容を提供すれば、単位認定できますか。

大学によってカリキュラムの内容が一律では無いこと。又、学部か或いは大学院かでも内容が異なってくることを考慮すると、内容を限定することは難しい。しかし、劇場、音楽堂における学習のみで単位を認定する場合には、((3)と重複するが)以下の様な内容を少なくとも半年以上行うことが必要となると思われる。

- ・演奏会や催事などの企画制作への参加(財務・法務の実務体験。チームへの参加、或いは学生による企画。地域ニーズ把握のための調査研究活動も含む。)
- ・技術職(音響, 照明, 道具等)に関する教育プログラム
- ・演奏会や催事などの公演における実地体験。

又、劇場、音楽堂等から講師を招いての授業も考えられる。

(6) 劇場、音楽堂等と連携し、大学生等がインターンシップ等の実地の経験をすることについてメリットがありますか。

アートマネジメントを目指す学生、或いは文化政策を研究する学生にとっては、半年~1年間の継続したプログラムの経験は当然メリットがある。又、実技系の学生にとっても自分達の演奏を支えている活動について実地に知ることは、教育上大きなメリットがあると思われる。

(7) このほか、劇場、音楽堂等との連携に係る取組で考えられるものがあれば記載してください。(調査研究の成果の活用等)

既出の回答と若干重複するが、劇場、音楽堂等を大学の教育研究成果発表の場として活用できれば双方にとってメリットがあると思われる。

(8) 劇場、音楽堂等との連携について、国として指針に記載すべきと考える事項があれば、記載してください。

現在多くの劇場、音楽堂等は指定管理者制度を採用している。又、地方自治体の文化予算も削減が続いている。加えて、大学経営も厳しい状況にある。これらを考慮すると、劇場、音楽堂等及び大学等との連携に於いて有意な活動を行うためには、国からの、或いは、劇場、音楽堂等の設置母体である自治体による予算措置が指針に含まれることが不可欠と思われる。

以上